



明治学院共通科目

—木曜5限—春学期—横浜—

「現代平和研究1」 ～ 広島・長崎講座～

「被爆国」の学生として
学び、知識を深める



高原孝生先生 渡辺祐子先生

原爆投下後、今なお続く核時代。リレー形式の授業で、現在の課題を考える明治学院共通科目（国際平和研究所提供）です。国際NGOの平和首長会議からも認められた「広島・長崎講座」では、ヒロシマ・ナガサキを自分の言葉で語れるようになるのが目標です。

国際平和研究所所長でもある高原先生は、「核軍縮の研究者として、世界情勢への危機感から二〇〇四年の開講に至った。学生たちは被爆者の証言をじっくり聞き、授業後の交流も行います。いまー

丁の時代であるだけに、実際に人に会い、肉声に耳を傾けて考える経験が大切」と話します。

授業担当の渡辺先生は「一般にも公開している授業なので学生と聴講生とが意見を交わすことも。原爆の被害は私たちが終わりにしてほしいと語る被爆者や、核実験の被害地取材した記者など、現場を知る人の話を聞き、事実を検証してほしい。戦争の一番の被害者は子どもなど立場の弱い人。戦争自体が差別的であることを学んでほしい」と熱を込めて語ります。

新たな観点から 「戦争」について学ぶ

堀内萌奈(政治1年)

一緒に授業を受ける一般の方のお話も聞ける貴重な授業でした。知らなかった事実や、自分にはない考え方に何度も驚かされました。関連書籍を読んだり、ニュースに敏感になったり、実際に行ったりと、自分から学ぼうと動くようになりました。

学生と共に一般の
聴講者も参加



ゲストは核実験の現場を取材したフォトジャーナリスト、豊崎博光さん。